

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	恵の実「ステップくん」		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 28日		～ 2025年 1月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19世帯	(回答者数) 19世帯
○従業者評価実施期間	2024年 12月 28日		～ 2025年 1月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・法人内に、恵の実っ子クラブ(学童クラブ)や保育園があり、建物も隣接しているため、日常的に交流をしながら活動を行うことができる。障害のある子どもも、関わり合いながら活動を通して、お互いがお互いを知り合いながら、子どもも職員も、保護者も多面的な価値観を学ぶ機会になっている。	・大きい集団が苦手なお子さんもいるので、ひとりひとりに合わせて、無理なく恵の実っ子クラブとの交流活動が行えるよう、個別活動や少人数活動などを組み合わせながら行っている。 ・小さい子の世話をすることで元気になったり、自信を感じる子もいるので、保育園児さんとの交流が持てるよう保育園職員とも連携を取っている。	・障害のある子どもも、子どもが関わり合いながら育ち合っていくためには、保護者同士もまたお互いに知り合っていく必要がある。保護者同士が話せる場、情報を共有できる場の更なる充実を図りたい。 ・支援学校に通うお子さんも、恵の実っ子クラブの仲間との交流を行っているが、その交流がさらに充実していくよう工夫を検討していきたい。
2	・近くに赤塚山公園があり、季節を感じながら散歩を楽しめたり、園庭には土山があり土遊びがたっぷり行えること、また1年を通して畑作りを行ったり、ニワトリの飼育など、自然を感じながら五感を使った遊びを楽しめる環境がある。	・豊かな環境を生かし、子どもたちが自ら「遊びたい」「やってみよう」と思えるきっかけづくりを大事にし、子どもたちが主体的に活動に参加できるよう意識している。また、子どもたち自身が遊びや活動の中で模倣したり試行錯誤していく「間」を大事にしている。大人も一緒になって楽しみながら、遊びや活動が仲間につながっていくように働きかけている。	・子どもたちがいるような遊びを作り出しているよう、またそこに仲間同士の関わりが生まれてくるように、大人がきっかけを作りながら、一緒になって楽しんでいく。
3	・定期的な茶話会や個別面談など、保護者支援を丁寧に行えるよう努力している。	・茶話会は、保護者の方が参加しやすいようにテーマを決めて実施している。保護者の意見も聴きながら学習会等の内容を決めて開催し、OBや就労施設職員の方を招いて見通しを持った子育てにつなげるようにしている。 ・個別面談は、時間を長めに設定し、保護者の方の話をしっかり聴くことを大事にしている。活動の様子は、写真や映像を使って伝えるようにしている。	・保護者の方の不安や悩みも聴きながら、学習会の充実をはかっていきたい。 ・本人だけでなく、兄弟姉妹への支援の充実も図ってきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・子どもの危機管理能力向上の目的もあり、安全に配慮しつつもあえて段差を取り入れているところもあるが、施設設備が、体に難しさがある方にとっては使いにくいところがある。	・肢体に障害のあるお子さんの利用を想定していなかったこともあり、肢体に障害のある方にとって使いやすい設備になっていないところがある(トイレなどは対応している)。	・本人や保護者の方に、生活のしにくさについての意見を聴きながら、生活の工夫を一緒に考えていく。 ・設備的な面だけでなく、本人が困っていることなどを周りの仲間とも一緒に解決している関係性をさらに深めていきたい。
2	・必要なマニュアル等を整備し、職員や保護者にも周知を図っているが、その中身をさらに実働的なものへと見直しをしていくことがこれからの課題である。	・必要な委員会を設置し、話し合いの上マニュアルを整備しているが、実際にマニュアルを使用している実践経験が少ない。	・必要な研修や訓練も行いながら、1年に1度は法人全体で見直しを行っていく。特に自然災害時のBCPなどは、職員も外部研修等を受けながら、災害時をより具体的にイメージして、備蓄品を含め必要な対策の見直しを検討していく。
3	・中学生の受け入れをしているが、中学生の利用者が少なく、中学生活動を充実させていくことが今後の課題である。	・中学生の受け入れを始めて経験が浅いこともあり、中学生の利用者の数が少なく、集団を作りにくい。中学生の集団は少ないが、小学生の高学年や大人が仲間になりながら、活動の充実を図ってはいる。	・中学生の仲間は少ないが、中学生が求める活動を実現させていけるよう、中学生の子どもたちの意見を聴きながら、工夫を考えていきたい。 ・中学生の心や体の不安定さについて、職員も学びを深め、子どもたちの心に寄り添い、保護者も一緒に乗り越えていけるよう考えあていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 恵の実「ステップくん」

公表日 2025/3/31

利用児童数 22人 (世帯数19)

回収数 19

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	2			・恵の実っ子クラブとの交流スペースは（恵の実っ子クラブの敷地）、学童がボール遊びをしていると狭く感じる。	・恵の実っ子クラブとの交流スペースは、活動内容によってエリア分けをしており、静かな空間で遊びたい子の遊びも保障できるようにしています。ボール遊びなどは、できるだけ外で行うように促していますが、室内で遊ぶときには、他の子のことも考えてどう遊んだらいいのか、引き続き学童の子どもたちと一緒に考えながら遊ぶようにしていきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	15	3		1	・大人の目が行き届くのがすべてではないが、もう少し職員がいてもよいのではないかと思う。	・職員配置数は満たしていますが、一人一人の支援の充実を図るため、次年度は職員数を一人増やした対応を考えています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	4			・恵の実っ子クラブとの交流スペースでのバリアフリー化はできていないと思う。トイレなど難しい部分もある。ステップ棟トイレはできている。 ・もう少し駐車場が明るいと嬉しい。冬はすぐに暗くなり見にくい。	・安全に配慮し、バリアフリー化をしているところと、必要に応じて段差を積極的に利用し、子どもの危機管理能力の向上につなげているところと、両方を大切にしています。ただ、身体的な難しさのある方にとっては過ごしにくいところもあると思いますので、今後対策を検討していきます。 ・恵の実っ子クラブとの交流スペースについても、トイレなど生活のしやすさのための工夫を、保護者の方とも相談しながら考えていきたいと思います ・駐車場に新たに電灯を設置して対応をします。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16	3			・床暖もあり、寒い日は足湯などもしてもらって、冷えやすい子たちへ対応してもらっている。	
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	1		1	・その子その子の思いや、力が発揮できるように考えてもらっていて勉強になる。	・子どもの障害特性だけでなく、子どもひとりひとりがぶつかるいろんな葛藤を多面的に理解し、子どもたちの言葉にならない心に寄り添えるよう、研修の機会を設け、専門性の向上に努めていきます。 ・また、保護者の方とお話する機会を大事にし、子どもの理解について保護者の方と一緒に深めていきたいと思います。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19					・令和6年4月に公表し、令和7年1月に見直しを行い、更新をしています。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18	1				
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18			1	・家庭の話も聞いてくれて助かっている。	・ガイドラインの大切な内容については、今後も1年に1度、茶話会の中で保護者のみなさんに周知させていただきま
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18			1	・日々、いろいろな取り組みをしてもらっている。好きなことは多めに入れてくれ、新しいことも取り入れてくれ刺激があつていいです。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	15	2		2	・地域交流しているか分からない。	・法人内に恵のまっ子クラブ（学童クラブ）があり、恵のまっ子クラブの学童と一緒に交流しながら保育・療育を行っています。地域の児童館にでかけたりはしませんが、日常的に地域の学齢児との交流があり、また法人内には保育園もあるため、園児さんとの交流もあります。支援学校に通う子どもたちも交流を行っていますが、より交流の機会が増えていこう、活動の工夫をしていきたいと思ひます。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18			1	・定期的に茶話会を開催し、保護者同士の交流の場を設けています。今年度は、保護者の意見を参考に、茶話会の中で学習会を企画して実施しました。次年度も、学習会を企画予定です。 ・障害福祉課等から送られてくる研修案内を、保護者の方にもお知らせするようにしています。 ・茶話会や学習会になかなか参加できない方もいますので、そうした方へのサポートの仕方を工夫していきたいと思ひます。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	19					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	1			・すごくしっかりやってもらっているので、毎回面談が楽しみです。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思ひますか。	18	1				・まずは保護者の方の話をしっかり聴く姿勢を、職員がしっかり持ちたいと思ひます。子どもの見せるいろんな姿をどう理解するのか、保護者の方と一緒に考えあっていく過程を大事にしたいと思ひます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	19					
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19					
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思ひますか。	19					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	17			2	・自分が見ていないため分からない。	・自己評価の結果については、分析を行い、HPに掲載するとともに、次年度への改善事項等をふまえて茶話会で報告を行います。 ・定期的な会報は「恵の実だより」を発行しています。活動概要や行事予定等も、その都度連絡をしていますが、連絡が少し遅くなってしまうときもあるかもしれせん。できるだけ早めに連絡ができるようにしたいと思ひます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思ひますか。	19					

保護者への説明等

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の 対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	1				<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの茶話会で、マニュアル等の周知を行いました。毎年、年度初めには周知を行っています。 ・訓練等も定期的に行っていますが、訓練実施の報告がしっかり伝わっていません。今後は、お便り等を利用して、報告を行います。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19				<ul style="list-style-type: none"> ・園児期は非常時用の個人の衣類を事業所に預けましたが、学童期も預けますか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な避難訓練を実施しています。また、職員は毎年、普通救命講習を受講するようにしています。 ・子どもの状況に応じて、災害時に個々に必要となるものについては、個別で回収させていただくこともあります（着替えなどの防寒着や特別な非常食など）。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いませんか。	17	1		1		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度初めの茶話会で、安全計画について周知をしました。今後も、1年に1度は周知をしていきたいと思えます。また、保護者の方からも意見をいただき、さらに実働的なものへと改善していきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いませんか。	17	2				<ul style="list-style-type: none"> ・事故や怪我が起きた際、速やかに上長に報告をし、迅速な対応ができるよう職員間で周知をしています。また、小さなヒヤリハットも迅速に職員間で共有する習慣をつけ、保護者への必要な説明が速やかにされるよう努めます。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	18	1				<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士、気が合う仲間もいれば、苦手な仲間もいます。ひとりひとりの気持ちを大事にしながら、必要に応じて個別支援や少人数活動を組み合わせながら、安心を作っていきたいと思えます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	15	4			<ul style="list-style-type: none"> ・ひとふんばりが必要なことを子ども自身認識しているので、時には行きたくない日もあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが抱えているいろんな思いに寄り添い、どんな支援が必要なのか、本人と保護者の方と一緒に考えあてていきたいと思えます。 ・事業所の活動に期待が持てるよう、子どもたちの願いに耳を傾けながら、子どもたちと一緒に活動内容の工夫を考えていきたいと思えます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	19					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
恵の実「ステップくん」						
チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・10名定員から20名定員に増員する際に、新たにログハウスを建設したことで、広いスペースが確保され、また状況に合わせてグループ分けをして生活や活動することもできる。 ・園庭もあるので、たくさん運動したい利用者には外での活動も保障できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢の幅も広がっているため、それぞれに必要な活動や安心できる場所を確保できるよう、スペースを区切ったりグループ分けなどをし、さらに工夫をしていきたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・20人の利用者に対して、管理者と児発管以外の直接処遇職員を6名配置している。療育開始前の打ち合わせの時間を大事にし、その日のねらいに応じて、利用者のグループ分けやそれに伴う職員体制を工夫して、療育が充実するよう職員間の情報共有や連携を重視している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より丁寧な療育活動ができるよう、職員の増員を考えていきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・安全に配慮し、バリアフリー化をしているところと、必要に応じて段差を積極的に利用し、子どもの危機管理能力の向上につなげているところと、両方を大切にしている。 ・一人一人の力に応じて、“自分で考えて生活ができるように”、物の配置を工夫したり、視覚的な支援も必要に応じて取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体に難しさのある利用者の方にとっては、生活しづらいところもあると思うので、今後、身体に難しさのある方の意見も聞きながら、生活の工夫を一緒に考えていきたい。 ・恵の実っ子クラブ（学童クラブ）との交流を行っているが、恵の実っ子クラブとの交流スペースについても、生活のしやすさの工夫を検討していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、活動開始前に、安全点検や掃除を行ってから受け入れをするようにしている。 ・週に1～2回は、子どもたちと一緒に掃除をするようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生が増えてきているので、中学生がくつろげるスペースの工夫を検討していきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・室内を扉で3つの部屋に分けることができ、また、別棟でログハウスも設置されているので、利用者の様子や活動内容、男女を分けた生活空間など、状況に合わせて使い分けることができる。 	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・月に1～2回、職員全員参加の職員会議があり、必要に応じて業務改善についての話し合いの場を設けている。職員から、意見を出しやすい雰囲気作り心掛けている。 	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・年に1回、自己評価表とは別に記述式のアンケートも行い、保護者からの具体的な意見を把握できるようにしている。アンケートの内容については、職員間で分析と対策を話し合い、その結果を保護者には茶話会や書面等で保護者全員に周知をするようにしている。 	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・月に1～2回の職員会議で、業務改善について意見の聞き取りをする場を設けている。出された意見について、職員みんなで改善策を考えあい、実行に移せるよう努力している。職員から、意見を出しやすい雰囲気作り心掛けている。 	
9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に第三者評価を実施。 		

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人一人が自分の目標をもって学びを深めていけるよう、一人一人の資質向上計画を作成。外部研修等の斡旋を行っている。 ・法人内でも、講師を招いての研修機会を確保している。 	・職員全体でどんな学びを深めていきたいか話し合い、新たな研修機会（法人全体ではなく事業所ごとの学びの場）も充実させていきたい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年3月に公表。令和6年7月に新たなガイドラインが公表されたのに合わせて見直しを行い、新たなものを公表している。 	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・利用開始時、また継続利用の方は1年に1度アセスメントを行い、利用者や保護者のニーズを把握し、支援計画に反映させている。 	・適宜、必要に応じてアセスメント内容の見直しを行ってきたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングや支援計画の立案の際は、子どもに関わる職員が参加をした会議で話し合いをし、子どもを多面的に捉えた上で検討を行うようにしている。 	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を職員間で共有するとともに、会議の中で計画に沿った支援が行われているか、そうならない際にはその原因と支援の工夫などを話し合う場を設けている。 	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内で統一したアセスメントツールを使用し、1年に1度アセスメントを行っている。また病院で実施する発達検査等の情報を共有し、子どもの把握に活かしている。 ・その他、日々の療育記録や保護者面談での情報共有等をインフォーマルなアセスメントとして組み合わせ、子どもの状態像を捉えるようにしている。 	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方や職員には、1年に一度ガイドラインについて説明をし、内容を共有する機会を設けている。 ・子どもの支援に必要な項目が適切に設定されるよう、支援計画のフォームの見直しを行った。 	・令和6年7月にガイドラインの見直しがされたため、年度初めには、見直しがされた内容を含め、保護者の方や職員間で改めて内容の共有を行う。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の中で、活動プログラムの立案を行っている。いろんな職員が、それぞれの得意分野を活かして、意見を出し合い、様々な体験ができるよう検討しあっている。 	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの願いが活動プログラムに反映されるよう、子どもたちの意見を聞く機会を大事にしている。発達や年齢によっては、子どもたちが自分たちで計画・実行ができる機会を保障している。 ・季節に合わせた自然体験なども取り入れながら、子どもの発達に合わせた配慮をし、様々な体験ができるよう検討しあっている。 	・自分の意見を言葉で表現しにくい子どもに対しても、ひとりひとりの思いが大事にされた活動プログラムになるよう、職員がいかにか子どもの願いを感じ取っていくかが重要である。職員が固定観念にとらわれないよう、いろんな職員で考えあっていくことを大事にしたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりの発達や性格、その子の興味関心の世界、また精神状態等をふまえて、必要な活動を個別で行うときと、少人数で行うとき、また集団で行うときと、それぞれ狙いを定めて計画を作成している。 ・法人内にある恵のまつ子クラブ（学童クラブ）との交流活動についても、一人一人の状況に応じて活動に参加できるようにしている。 	・職員体制の関係もあり、個別活動は少なからずやりやすい。ひとりひとりにとって個別活動や個別対応が必要かどうか、職員間で丁寧に分析し、対応の工夫を考えていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・支援開始前には、打ち合わせを行い、支援内容や役割分担の確認、子どもや保護者の情報共有などを行っている。 	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・その日のうちに共有すべき緊急な内容については、時間を調整し共有できるようにしている。 ・その日気付いたことなどは、その日のうちに記録に残しておく様式を作り、その内容を翌日の打ち合わせで共有するようにしている。 	・支援終了後は、保護者対応等もあり、また放課後の開所時間の特性上時間が遅く、職員全員が集まることは難しく、細かな支援の振り返りをその日に行うことは難しい。 ・その日に共有すべき内容については、上長とは共有ができるよう、職員間で連携が取れている。

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・その日の支援の内容や子どもの様子を記録に残している。日々の記録を、モニタリングなどの支援の評価にもつなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・半年に1回以上モニタリングを行い、支援内容や子どもの様子について検討し合い、支援計画の見直しを行っている。 ・子どもに関わる複数の職員でモニタリングを行い、子どもを多面的に捉え、いろんな視点から意見を出し合えるようにしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		・4つの基本活動を視野に入れ、事業計画や支援プログラム等を作成している。	・地域交流活動では、地域の学生ボランティアの受け入れや、地域の公共施設への散歩、買い物体験、事業所でのマルシェの開催等を行っているが、今後も地域との交流の機会を積極的に図っていきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・発達がゆっくりな子どもも、“自分の意見を主張する”機会がもてるように、子どもに関わることは子どもが自分で意見をだして決められるよう働きかけている。意見を主張しにくい子どもには、視覚的なサポートを取り入れたり、選択肢を作るなど、その子に合わせた支援をしている。	・言葉で意思表示をしにくい子どもや、自分の思いを素直に言葉にできない子どもなど、表出される言動がすべてではないことを理解し、子どもの言葉にならない本当の思いを見つけていけるよう、職員間で考えあっている。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・児童発達支援管理責任者が子ども全体のことを把握しているので、児童発達支援管理責任者が参加することが多い。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・市内の事業所が集まる連絡会が2か月に1度ある。地域の保健や障害福祉、教育、保育など、情報共有等が必要な際は、関係機関の方が連絡会に参加をしてくださり、情報共有や意見交換などを行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・年度初めに、学校ごとに情報共有の方法やトラブル発生時の対応等を学校側と共有するようにしている。 ・送迎に関する下校時刻等は保護者を通じて情報共有をすることが多い。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・就学前に利用していた保育園や事業所の担当職員と情報の引継ぎを行い、円滑な移行ができるように努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。			・これまで対象となる子どもがいない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		・センターが主催する研修には、積極的に参加するようにしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		・法人内にある恵のまつクラブ（学童クラブ）の子どもたちと、日常的に交流をしながら保育活動を行っている。子どもの様子に合わせて、交流の頻度を調整し、関わり方の工夫をしている。 ・法人内の保育園の園児さんとの交流もある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		・市内の放課後等デイサービスの事業所代表者が集まる連絡会に参加をしている。連絡会の代表者が協議会へ参加しており、協議会の内容について情報共有をしている。	・今後も連絡会に積極的に参加をし、市内の福祉課題についても考えあっていきたい。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・保護者のお迎え時に、その日の子どもの様子について、できる限り具体的に伝えるようにしている。家庭での様子についても聞き取りをし（状況によってはライン等も使用し）、できるだけタイムリーに子どもの様子を共有しあえるようにしている。	・お迎え時に話をする保護者が偏らないよう、職員間で情報共有をしながら、職員の方から保護者に声を掛けていくよう心掛けていく。	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉課から送られてくる保護者向けの研修会について情報提供している。 ・保護者の方の意向も聞きながら、茶話会で学習会を企画し学び合う機会を作っている。 ・患のまつ子クラブと合同のクラス会等で、子育てについての学習の場を設けている。 ・家庭での対応に困っている保護者へは、面談を実施したり、その都度子どもの捉え方を一緒に考えあい、対応の仕方工夫を助言している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方の学習の場の充実を図っていき ・茶話会等の集まりに参加することが難しい保護者の方には、個別に子育ての対応力向上につながる学びの提供をしていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・運営規定、支援プログラム、利用者負担等については、年度初めに、説明をするようにしている。 ・実費負担については、その都度活動前に説明をするようにしている。 	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングや支援計画を作成する際には、必ず保護者の意向を確認している。子どもの意向は、子どもの視点に立って職員と保護者とで考えあっているが、実際に支援を行う際には、子どもの意向を確認した上でやっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や職員が思うことと、子ども本人が思うこととは違っていることもある。大人だけで決めず、子ども本人の意向を確認して、子ども本人と一緒に考えあっていくことも大事にしていきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画の期限内に面談を行い、新しい支援計画についての説明を行い、同意を得ている。 	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの相談にはできる限り迅速に対応し、助言できるようにしている。現場職員が受けた相談については、上長に報告し、情報共有すると共に、適切な助言と支援ができるよう連携をとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方から声をかけにくい方もいるので、職員の方からも保護者に声をかけるようにし、保護者の悩みに気づいていけるようにすることを心掛ける。 ・定期的な茶話会等でも、保護者が悩みを出しやすい雰囲気を作っていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に、茶話会を開催し、保護者同士の交流の機会を作っている。全体で行う時と、発達や悩みに合わせて小グループで行う時と、目的別に開催をいっている。 ・保護者交流を狙いとした行事も行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団に参加することが苦手な保護者の方もいるため、負担になりすぎないよう工夫をいっていく（目的別にすることで、参加したい茶話会を選べるようにする）。 ・兄弟姉妹が参加できる行事も企画しているが、回数は少ない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時、また年度初めに、相談・苦情受付窓口や担当者、第三者委員の設置などの情報を説明している。苦情や相談の申し入れがあった際は、できるだけ速やかに話し合いの場を持ち、改善につなげる体制を作っている。 	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回、法人として「患の実だより」を発行し、事業所の様子を伝えている。年度初めに、年間予定を配布している。 ・活動ごとに、活動概要やねらい、計画内容等をまとめたお便りを作成し、メールや書面で伝えるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お便りの発行が少し遅くなってしまうときもあるので、できるだけ早く発行できるよう努力していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、毎年年度初めに守秘義務や書類等の個人情報の管理の仕方について周知している。 	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの意思疎通については、子ども一人一人に合わせて、その子の理解のしやすい伝え方の工夫や、その子が意思表示しやすい配慮をして対応している。必要に応じて、視覚的な支援を取り入れたり、少人数や個別での対応もしている。 ・保護者の様子に合わせて、口頭だけでなく書面を使って伝えたり、個別での丁寧な説明を行うなど配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉での表現が難しい子どもには、視覚的支援も取り入れながら、その子の子が意志を表出しやすい工夫をしているが、表出された表現がその子のすべてではないこともある。ひとりひとりの本当の思いが何であるのか、表面的な表出だけで判断せず、いろんな視点で考えあっていくことを大事にしていきたいと思う。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・年に一度のマルシェが、回を重ねるごとに少しずつ地域に開けていっている。事業所として、マルシェで作品展等を出し、地域の方々に知ってもらおう機会にしている。 ・地域の学生ボランティアの受け入れを行い始めた。 	

保護者への説明等

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・職員や保護者には、年度初めに各種マニュアルの説明を行っている。また、閲覧用のマニュアルの一覧を設置している。 ・計画に沿って、発生を想定した訓練を行っている。 	・事業所ごとの訓練だけでなく、法人全体で行う訓練を定期的実施していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体でBCPを策定し、定期的な避難訓練を行っている。また、今年度末にはBCPの見直しを行った。 	・今後も、実働に合わせ、また地域等の情報を集めながら、BCPの見直しを行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・年に一度、アセスメントを行い、子どもの状況について確認を行っている。 	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		<ul style="list-style-type: none"> ・現在、アレルギーのある子どもはいない。 	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・安全計画を作成し、それに基づき研修や訓練を行っている。法人として、毎年初級救命救急の講習を受けている。 	・今後、安全計画の見直しを行っていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの茶話会で周知をしている。 	・災害時に家族との連携がスムーズに行えるよう、家族の意見も聞きながら、見直しを行っていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットがあった際には、すぐに上長に報告する体制を作っており、関係職員、上長で検証と再発防止について迅速に話し合うようにしている。また、その内容を記録し、職員会議等で、再度情報共有する場を持ち、再発防止に努めている。 	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに、虐待防止に関する事業所内研修を行っている。また、現場職員も、虐待防止に関する外部研修に参加する機会を設けている。 	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束になりうる可能性がある場合は、組織的に判断し、保護者への確認や説明を行い、支援計画に記載する仕組みができています。 ・虐待防止・身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に会議を開催している。 		